

# 世界8カ国7000物件を紹介 日本人投資家がターゲット

4カ国語に対応  
同サイトは、海外の物件を買いたい日本人と日本の物件を買いたい外国人に向けた物件紹介サイト。2016年から運営を始め、現在取り扱う物件は約7000件。



▲「SEKAI property(セカイプロパティ)」のトップページ。世界8カ国の物件を検索できる



### ビヨンドボーダース

マレーシアやカンボジアなど世界の不動産をネットで買える。ビヨンドボーダース(東京都新宿区)は、海外の不動産を検索できるサイト「SEKAI Property(セカイプロパティ)」を運営している。東南アジアを中心とした世界8カ国の物件を取り扱う。どんなサービスなのか遠藤忠義社長に聞いた。



遠藤忠義社長

が掲載されている。例えば、カンボジアの物件ページでは、間取りや価格、想定利回り、占有面積などが表示される。例えば、カンボジアの物件ページでは、間取りや価格、想定利回り、占有面積などが表示される。約1000万円〜3000万円の価格帯で、想定利回りは7.0〜8.0%といったことが記されている。

## 日本の家が欲しい外国人にも人気

利用の流れは、欲しい物件があったら、サイト内の問い合わせフォームに必要事項を入力し送信。その後、同社の営業が案内するという手順になっている。

日本人が海外の物件購入を検討する目的は、投資が主だ。遠藤社長のシミュレーションによると、各国の想定平均利回りは、マレーシア3〜5%

セカンドハウスとして買うケースが少なくない。「日本人は日本の物件は高いと思うがちですが、海外と比較するとそうでもない。香港と比較するとかなりの価格で購入できる。また、その国の土壌と建物を外国人が所有している国は日本くらいなので、それも必要がある理由」と遠藤社長は話す。

「今後は全世界の物件を比較できる仕組みを作りたい。また、ローンや保険、リフォームなどのファイナンスを全てサポートできることを目指す。そういう事業を行っている会社はないので、グローバルスタンダードとなる会社になりたい」と語る。

%、カンボジア8〜10%など、東南アジアの物件の利回りが高いことが分かる。「自分が購入したマレーシアの物件価格は、1年で2割上がりました」と語る。

外国人がセカンドハウスとして購入を検討するのは、長野や北海道など地方の物件だ。「日本人なら絶対買わないような田舎の物件にも外国人は目を向ける。例えば、ゆっくり過ごしたいという理由で、有馬温泉の近くの物件を購入された方がいる。そこには空き家対策の可能性があると願っています。」

遠藤社長は不動産が好きで、自分でアジアの物件を売買して投資を始めたきっかけ。